

広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

平成30(2018)年10月

学 生 募 集 要 項

放射線災害医療コース

学内特別選抜

平成 30(2018)年 3 月



概 要

以下に挙げるアドミッション・ポリシーに合致し、広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」の履修によって放射線災害医療コースの目標に到達すると見込まれる人、特に災害時に医療分野において活躍できる人を募集するため、放射線災害医療コース学内特別選抜を実施します。

プログラムでは、国際機関におけるトレーニングやインターンシップなどの機会が提供され、修了後は、学際的な視点を持ち、かつマネジメント力を備えた放射線災害医療の専門家として、国際機関等で活躍することが想定されています。

○大学院博士課程リーダー育成プログラムのアドミッション・ポリシー

広島大学では、人類が解決を迫られている複雑な課題に挑戦し、世界の平和で持続的な発展に貢献するため、大学院改革の一環として、複数の研究科を横断する分野融合型の博士課程を学位プログラムとして新たに開設しました。従来の学問分野、研究領域の枠組みを超えて、新たな知を創造できる人材を育成し、グローバルリーダーとして社会に輩出していきます。

○放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムのアドミッション・ポリシー

放射線による災害は全世界に影響を及ぼすグローバルな問題であり、それに対処し放射線災害復興を担うためには、学際力、国際力、マネジメント力を備えた人材が必要です。

本プログラムでは、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学などの基礎的知識を有し、放射線災害からの復興を、「放射線災害から生命を護る」、「放射能から環境を護る」、「放射能から社会と子どもを護る」観点から、横断的かつ統合的にマネジメントし、国際的に活躍できる分野横断・統合的グローバルリーダーの育成を目指しており、次のような学生を求めています。

- (1) 横断的知識と技術を身につけ、社会の発展に貢献したい人
- (2) 人の痛みがわかり、災害復興に貢献したいと強く願う人
- (3) リーダーとなって、地域・国際社会で活躍したい人
- (4) 意欲、行動力、責任力、人間力に優れた人

○放射線災害医療コースの目標 –放射線災害から生命を護る人材–

- ・ 原発作業員などへの急性放射線障害の病態把握と診断・治療ができる
- ・ 一般住民などへの低線量被ばくの影響評価ができる
- ・ 内部被ばく・外部被ばくの的確な線量評価ができる
- ・ 放射線高感受性である胎児・小児への適切な影響評価と診断・治療ができる
- ・ 放射線による発がんや遺伝的影響の機序とそのリスク評価ができる
- ・ 放射能汚染ストレス下における心理学的評価とメンタルケアができる

平成 30 年 10 月より本学大学院博士課程リーダー育成プログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」を履修する学生を次のとおり募集します。

1. 募集人員

放射線災害医療コース（4 年制） 若干名

2. 出願資格

広島大学大学院医歯薬保健学研究科博士課程医歯薬学専攻に平成 30 年 4 月に入学した者

3. 出願手続

志願者は、本プログラムホームページを参照し、自らが希望する活動がプログラムに適しているか及び希望研究内容等について主任指導教員と相談し、プログラム履修の許可を得てください。

なお、「7. プログラム担当者一覧表」を参照の上、現在の主任指導教員がプログラム担当者でない場合は、出願手続前に広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務室にご連絡ください。

(1) 出願期間

平成 30(2018)年 5 月 28 日(月)から平成 30(2018)年 6 月 7 日(木)午後 5 時まで(必着)

受付時間は、午前 8 時 30 分から午後 5 時までです。

(2) 出願書類等

	書類の名称	摘 要
ア	志願票	所定の様式を使用してください。
イ	研究計画書	所定の様式を使用してください。
ウ	推薦書	所定の様式を使用し、主任指導教員が作成したものを提出してください。
エ	小論文	所定の様式を使用し、用紙に記載されている小論文 1 及び 2 の課題について記述してください。
オ	英語検定試験等の成績証明書等	平成 28(2016)年 4 月以降に実施された英語検定試験等(TOEIC [®] 公開テスト, TOEIC [®] -IP(カレッジ TOEIC [®] 含む), TOEFL [®] -PBT, TOEFL [®] -iBT 等)のスコア証明書等の英語能力を証明する書類を提出すること(複数提出可)。英語検定試験等を実施する公的機関が発行する書類であること。

※ 検定料は、不要です。

※ 所定の様式は、下記ウェブサイトからダウンロードできます。

(<http://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/nyushi/>)

(3) 出願書類等の提出

① 提出方法

出願期間中に、原則として持参又は郵送(簡易書留郵便など、配達記録が残る方法に限る。)

で提出してください。郵送による場合は、封筒表面に「プログラム出願書類在中」と朱書してください。電子メールに添付して提出する場合は、後日証明書の原本か、原本証明された写しを提出してください。

出願書類等が出願期間中に届かない場合、及び出願書類等に不備がある場合は、受理しません。

② 提出先（「6. 照会及び出願書類等の提出先」参照）

(4) その他

① 受付後の記載内容の変更は、認めません。

② 出願書類等は、返還しません。

③ 出願書類等に記載された個人情報(氏名、生年月日、性別、その他の個人情報等)は、本選抜及び合格通知並びに履修手続を行うために利用します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。なお、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、コンピューター処理をするため、関連業務を外部の事業者に委託することがあります。

4. 選抜の方法等

(1) 第1次選抜(書類審査)

志願者の出願書類等に基づき、第1次選抜を行います。

この結果は、平成30(2018)年7月3日(火)に電子メールにより通知します。

(2) 第2次選抜(面接審査)

日程：平成30(2018)年7月21日(土)

場所：広島大学 霞キャンパス (広島市)

第1次選抜(書類審査)に合格した者に、本学の指定する会場において、学問分野、リーダーシップの素養、英語力等に関する口述試験を行います。

(3) 合否判定方法及び採点評価基準

① 合否判定方法

採点評価基準に従い、書類審査及び面接審査等の結果を踏まえ、総合的に判定します。

② 採点評価基準

書類審査及び面接審査、語学能力を考慮して総合的に選考します。なお、選抜試験は、志望の動機、志望分野への適性及び基礎学力を選考の評価基準とし、三段階評価を行います。

(4) 合格者の発表

平成30(2018)年9月4日(火)午前10時(予定)

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムホームページ

(<http://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/>)に掲載し、合格者には電子メール及び郵送により通知します。電話等による照会には、原則として応じません。

5. 修学上の経済支援について

本プログラム履修学生に対して、現在、次の(1)(2)の支援を行っています。詳しくは、本プログラムホームページ（<http://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/>）を参照してください。

(1) 成績優秀者に対する奨学金給付（LP エクセレント奨学金）

(2) 成績優秀者に対する授業料不徴収

また、修学上必要となる経費について、本プログラムが定める範囲において支給します。

6. 照会及び出願書類等の提出先（出願等に際して不明な点があれば、下記へ照会してください）

広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務室（霞キャンパス学生支援グループ内）

〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

Tel: 082-257-1635 E-mail: phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp

電子メールでのお問い合わせの際には、件名に「[●●（あなたのお名前）] 出願について」と書いてお送りください。

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムホームページ

（<http://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/>）

7. プログラム担当者一覧表

志願者は、本プログラムホームページを参照し、自らが希望する活動がプログラムに適しているか及び希望研究内容等について主任指導教員と相談し、プログラム履修の許可を得てください。なお、現在の主任指導教員がプログラム担当者でない場合は、出願手続前に広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務室にご連絡ください。

※プログラム担当者一覧表は平成30(2018)年4月1日現在（予定）のものであり、変更が生じる場合があります。

放射線災害医療コース プログラム担当者一覧

平成30年4月1日現在(予定)

	氏名	専門	所属, 担当研究科・専攻・職名
放射線災害医療コース	神谷 研二 (プログラム責任者)	放射線障害医学、放射線生物学	副学長(復興支援・被ばく医療担当) 兼 医療政策室・特任教授
	小林 正夫 (プログラム コーディネーター)	小児科学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	田代 聡 (コースリーダー)	生化学、分子生物学	原爆放射線医科学研究所・放射線障害機構研究部門・教授 兼 医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	松浦 伸也	遺伝医学、放射線生物学	原爆放射線医科学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	稲葉 俊哉	血液学、分子生物学	原爆放射線医科学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	東 幸仁	循環器内科	原爆放射線医科学研究所・ゲノム障害医学研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	廣橋 伸之	救急医学	原爆放射線医科学研究所・放射線災害医療研究センター・教授 兼 医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	保田 浩志	放射線防護、線量評価	原爆放射線医科学研究所・放射線影響評価研究部門・教授 兼 医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	瀧原 義宏	血液学、幹細胞生物学	原爆放射線医科学研究所・客員教授
	岡本 哲治	口腔外科学、口腔科学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	永田 靖	放射線腫瘍学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	粟井 和夫	放射線科学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	菅井 基行	細菌学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・客員教授
	安井 弥	人体病理学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	田中 純子	衛生学、公衆衛生学、健康科学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	茶山 一彰	消化器病学、肝臓病学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	宿南 知佐	口腔生化学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	志馬 伸朗	救急集中治療医学	医歯薬保健学研究科・医歯薬学専攻・教授
	細井 義夫	放射線科学	東北大学医学系研究科・医科学専攻・教授
	島田 義也	放射線発がん	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構・理事
	小笹 晃太郎	疫学	公益財団法人放射線影響研究所・広島疫学部長
	安村 誠司	公衆衛生学・疫学、公衆衛生学	福島県立医科大学・理事兼副学長 兼 医学部・公衆衛生学講座・教授
	坂井 晃	血液、腫瘍学、放射線生物学	福島県立医科大学・医学部・放射線生命科学講座・教授
大津留 晶	放射線健康管理学	福島県立医科大学・医学部・放射線健康管理学講座・教授	
谷川 攻一	救急災害医療、心肺蘇生法	福島県立医科大学・副理事長 兼 ふくしま国際医療科学センター長	
高村 昇	国際保健学	長崎大学・原爆後障害医療研究所・国際保健医療福祉学研究分野・教授	